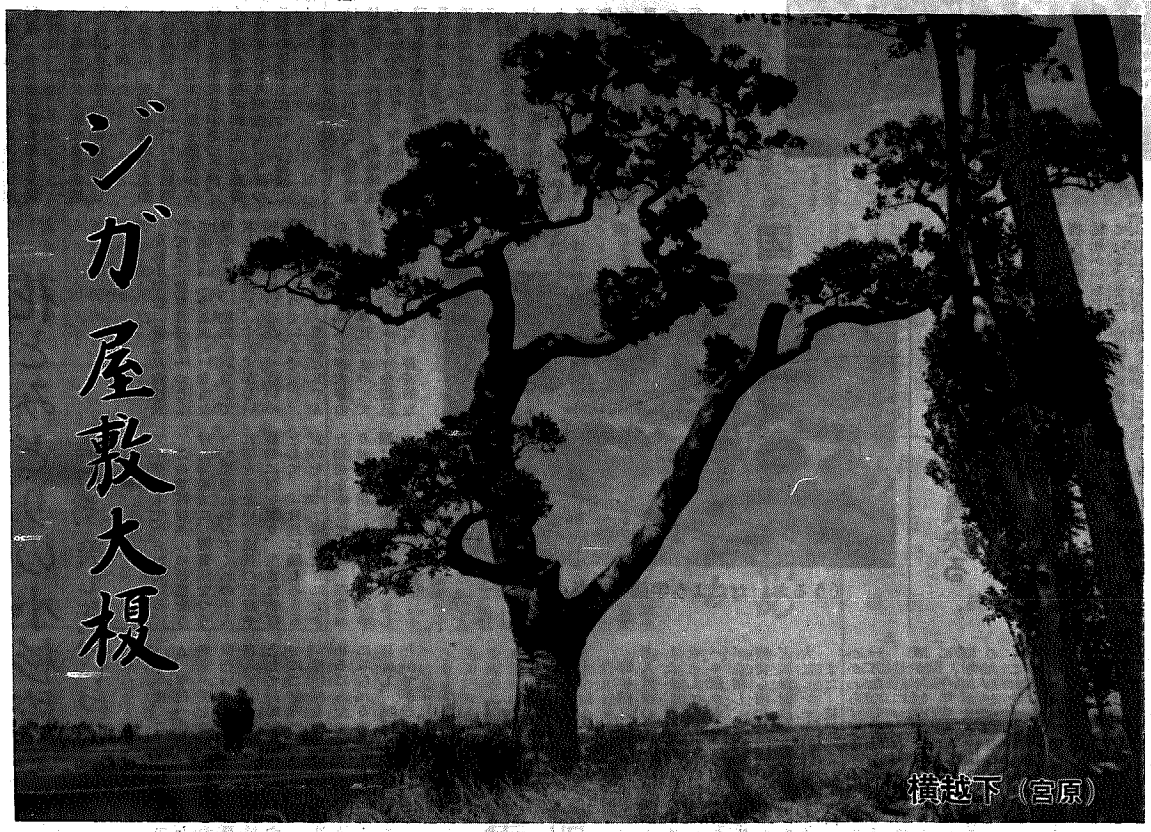
'73 7
No. 14
昭和48年7月1日発行
発行　横越村役場

広報よこごし

おもな内容
1.緑は心のふるさと、村の推奨の木にマッなどがきまる（P1）
2.是非県立高校を（P2）
3.花とみどりの小杉小学校（P2）
4.文化財調査審議会委員決る（P2）
5.村民プールはじまる（P3）
6.県民スポーツの熱戦で梅雨空を一掃（P4）



宮原の秋月
林園路を夾んで樹行を為す、祠殿縹々たり夜転た涼し
閑賞幾人か我が意に同じ、月光地に満ちて霜より白し
（棲霞上人）

環境浄化と自然に親しむうるおいを

わたしたちの国日本は、驚異的な経済成長を示した反面諸公害がもたらした生活環境の悪化が次第に拡がり、その対策が大きな社会問題となっています。

都市やその近郊付近では、人間性のシンボルともいうべき「緑」が年々失なわれ、豊かな自然環境をとりもどそうとする運動が社会の共感を得て、高まりつつあります。

横越村においては、まだ多くの自然と緑が残されていますが、人為的な破壊からこれを守り大切に保護することがわたしたち世代に与えられた責務でもあります。

住みよい郷土、静かな生活環境には「緑」の存在は不可欠であり、「みどりは心のふるさと」ともいわれ、また空気を浄化する役割として、わたしたちの生存に重要なものであることが強調されています。横越村でも、このたび全県運動になっている「市町村推奨の木選定運動」に積極的にとりくみ、選定された木を中心とする幅広い緑化運動を推進することになりました。

みどりは心のふるさと
木（緑）を植えましょう

選定委員会で五品種決定

村では、「村推奨の木」を選定するため、村内各職団体等による各界各層の人たちからなる三十名の選定委員会を設け、さる五月十八日選定会議を開催しました。

自然環境が社会問題としてクローズアップされているため、会議は殆どの委員が出席し、活潑な討議が交され、最終的には投票によって樹種を選びその中よりまつ、うめ、さつき、もみじ、さざんかの五品種を決定しました。

なお、出席委員の皆さんから、今後緑の自然を守り親しむため、具体的な実践活動を立て、村民の間にこの運動を定着させる必要があることが強調されました。

<村推奨の木>
さ　も　さ　う　ま
さ　ざ　み　つ
か　じ　き　め　つ

推奨の木は記念樹として

村が推奨する木として決ったまつ、うめ、さつき、もみじ、さざんかの五品種のうち昭和四十八年一月から出生、結婚、新築があったところへ、そのおめでたの喜びを祝し、記念樹を贈ることにしました。

子供の成長とともに、また結婚の門出の幸福のために、家の繁栄のためにそれぞれの希望を託し立派に育ててください。

なお、該当者には後日配布する予定です。

横丁話

うっとうしい梅雨

空が続き、時折激しい雷雨が降りしきる梅雨の候ですすく先だって植えられたばかり思っていた苗が、ずんずん成長して一面緑のじゅうたんを敷きつめたような田んぼに変りました。稲の成長にとっては、この梅雨のお天気がどうしても必要なのでしょう。

最近ある雑誌の中で、日本の飢饉の歴史についての論文がのっていました。その中に「夫、春に長する時、天の是を求るにや、暖は天保丙申といへる歳、時気調わず、五穀不成にして、万民飢餓に苦しみ愛を忘れ子をすて、路傍に倒れ悩むありさま、浅ましくこそ思はるれ……」一八三七年今から一三五年前の天保八年の飢饉の際餓死した多くの人々のために立てられた碑文の一節です。この年だけではなく、昔の日本では数年おきに飢饉に襲われ、その度に多くの人々が餓死をした。ある見方からすれば、我が国の歴史は飢饉の歴史であるといってもよい。そしてそれは凶作と貧占めによるものであったというのです。

科学が進歩し、農業技術も進み、交通機関は発達し、政治の体制の整った今日では、もうそんな心配はないことと思います。然し、ニュースによれば、西アフリカでは旱害による被害で、多くの人々が飢餓に瀕しているということでありますし、ソ連では不作のため大量の麦を購入しなければならず、日本にも影響があるということでした。

飽食になれ、レジャーを楽しむ現在の日本では考えられないことでしょうが、何かこころを動かされ自戒の必要があるように感じさせられました。

この稲がやがて豊みきった青空のもとに、ふさふさと穂を垂れてみのり多い秋を迎えたいものです。

（四十）